## 国語科改訂のポイント

「言葉」は学習活動を支える重要な役割をはたすものであり，全ての教科等における資質･能力の育成や学習の基盤となるものである。人との関係を作り，情緒の安定を図る上でも大事なものである

知的障がい者である児童の学習上の特性や国語の獲得に関する発達の状態等を踏まえ，小学部では，児童の日常生活に身近な題材や児童が興味・関心を示す題材を用い，具体的な場面における言語活動をとおして日常生活に必要な国語を確実に身に付けていくこと

資質・能力の3つの柱で，目標と内容を系統的に示した

学習指導要領解説(未定稿)　資料2知的障害のある児童生徒に対する教科等

## グループ編成　児童生徒の実態

3年生2人、4年生1人、5年生1人　計4人（男子3人、女子1人）

| 聞く･話す | 読む | 書く | 位置の言葉 |
|---|---|---|---|
| 2～3語文で会話できる | 読み間違いや読み飛ばしをするが、平仮名は読める<br>片仮名もほとんど読める | 誤字脱字があるが、平仮名で文を書ける<br>片仮名も一部書ける | 日常生活の中でも使っている |
| 尋ねられたことや自分の経験を単語で話せる | | 誤字脱字があるが、慣れた文であれば、平仮名で書ける<br>手本があれば片仮名を書ける | 時折間違うこともあるが尋ねられると正しく答えられる |
| 決まったフレーズであれば聞いたり言葉で依頼などができる | 小学校1年生程度の漢字交じりの文が読める | 小学校1年生程度の漢字や平仮名･片仮名を書ける<br>文を書くことは難しい | ほとんど理解できていない |

## 単元の概要

単元観

円滑な意思疎通
語句を選び考え結びつけて構成する力
学習の基盤の一つである言語能力の育成

### 単元の概要（内容、計画等）

「前」や「横」など位置を示す言葉を使って、児童に馴染みのある「かくれんぼ」を楽しみながら物の場所を伝え合う学習を行う。

| 次 | 題材 | 学習活動 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1 | 位置の言葉を知ろう | 「（箱の）前/後/横/上/下/中」の言葉を聞いたり話したり、書いたりする。 | 2 |
| 2 | 位置の言葉を使ってみよう | 「（いろいろな物の）前/後/横/上/下/中」の言葉を聞いたり話したり、書いたりして友だちに伝える。 | 1本時 |
| 3 | 位置の言葉を聞いて探そう「探偵団」（教室） | 「○○の（前/後/横/上/下/中）」の文を読み、物を探す。 | 1 |
| 4 | 位置の言葉で説明しよう（屋内） | 「○○の（前/後/横/上/下/中）」の文を書き、友だちに伝える。（友だちは、それをヒントに探す） | 1 |
| 5 | 位置の言葉で表現しよう（屋外） | 運動場で、ベンチやプールなどの物や、空や雲、山などの自然物を、位置を示す言葉で表現し、言葉で表す楽しさを味わう。 | 1 |

## 単元の目標

1)位置を示す言葉を知り、それの言葉が示す位置が分かる。【知識・技能】

2)言葉を聞いたり読んだりして、言葉が示す位置を考えたり伝えたりすることができる。【思考・判断・表現】

3)位置の言葉を聞いて意欲的に考えたり、話したりすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

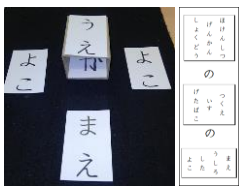
## 授業における工夫点

授業のアイテム

### a)分かりやすい教材・教具

位置の基準となる具体物や範囲を示すボードを準備する。

学習のキーワードやキーセンテンスは文字で示し、比べたり選んだりして自らの考えを持ったり発表したりできるようにする。




### b)課題の提示

児童の理解度に応じて段階的に課題を提示する。その際、全員が分かる発問や前時の振り返りから課題を提示する。

### c)体験的学習活動

言葉や文字のやりとりだけではなく、教材を操作するなどして実際に見たり感じたり、位置を比べたり選んだりできる学習活動を設定する。

### d)操作性と見える化

カードなどの具体物を用いて、視覚的に考えやすくしたり、自分の考えや互いの意見が見て分かるようにしたりする。

### e)評価

教師が児童の発言や行動を整理（構造化）しつつ共感･称賛･評価することで価値付け、児童自らが自己の考えを明確にできるようにする。

### f)対話のコーディネート

他児にも考えが伝わるように教師が児童の発言を繰り返したり、他児に問い直したりする。

### g)共通の教材

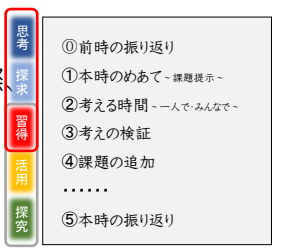
1つの教材を皆で使うことで、自分や他児の考えを見たり操作したり比べたりしながら学習できるようにする。

### h)スモールステップ

学習で理解したことを基に課題を追加する。その際、子どもの得意な認知･表現方法の順にする。

（聞く→話す→読む→書く）

児童が知っていることや経験していることを用いて授業計画を立て、前時の授業での内容を振り返り、次時の内容も簡単に取り扱うようにする。




### i)リアリティー

題材は児童の興味関心のある物だけではなく、日常生活に関連する題材や教材を取り扱うようにする。

実際生活に学んだことが生かせるように、学習場面を教室に限らず、屋外を含めて児童の生活場面を活用した学習活動を設定する。

生活場面を題材として

教室にある物を再現して

表現を広げ楽しめるように

## これまでの考察

### わくわく学べる授業のストーリー

「わくわく･わかって･うれしさ」のある授業

⓪前時の振り返り
評価と賞賛から授業をはじめよう
「こんなことができるようになったね（^_^）」
【学びをつなげる】

①本時のめあて～課題提示～
「できそう」を大切に
「○○ができるようになったね。じゃあこれは？」
【学習意欲の向上】

②考える時間～一人で･みんなで～
「やってみよう」「失敗しても大丈夫」
道具やカードを使って操作しながら考えよう
【自らの考え】【友だちの考え】

③考えの検証
「なるほど！できた！」を実感する
比較と選択で考えを持ち、表現（発表）する。
発表する順番がポイント　①できそうな子②できる子③まねできる子
【達成感】【自己･他者評価】

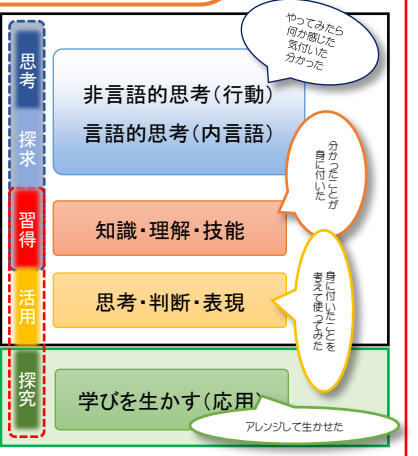
④課題の追加
「できた」だけど「これはどうかな？」もっとわくわく
「○○ができるようになったね。じゃあこれは？」【学習意欲の向上】

⑤考える時間

⑥考える時間～一人で･みんなで～
「やってみよう」「失敗しても大丈夫」
道具やカードを使って操作しながら考えよう
【自らの考え】【友だちの考え】

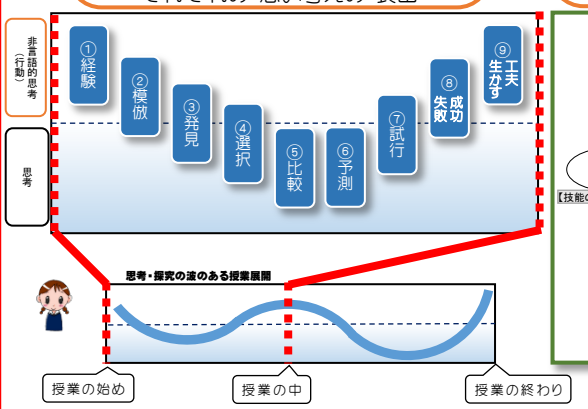
⑦考えの検証
「なるほど！できた！」を実感する
比較と選択で考えを持ち、表現（発表）する。
発表する順番がポイント　①できそうな子②できる子③まねできる子
【達成感】【自己･他者評価】

⑧本時の振り返り
評価と賞賛で出来たことを確認
「こんなことができるようになったね（^_^）」
【学びをつなげる】【達成感】【自己評価】

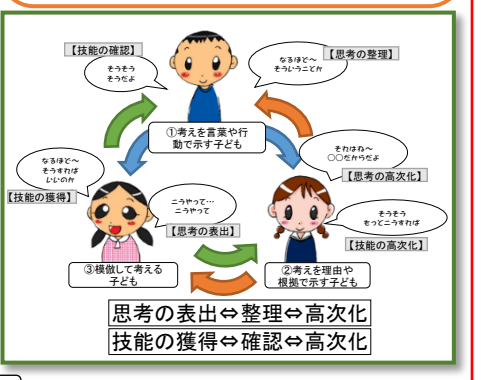



### 思考・探求

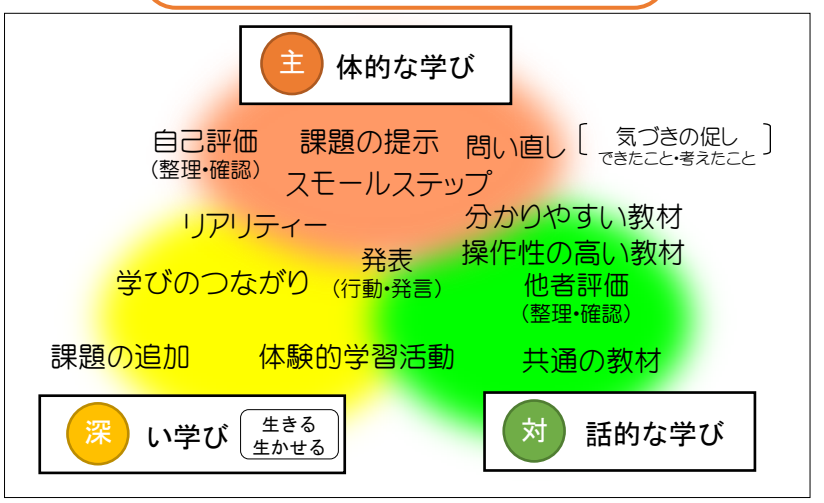
～それぞれの 思い考えの 表出～




### 対話的な学び　～非言語の学びあい～




### 授業のアイテム～3つの学びのために～




この単元をとおして、4人の子どもたちは位置の言葉を用いて表現し伝え合う学習をしてきました。

見比べながら考えている様子だったり、写真「山の上」or「階段の上」or「空の下」のように画一的ではなく、それぞれの考え方で伝え合うようになりました。